『時計じかけのオレンジ』原題 *A Clockwork Orange*　1971 年	執筆：清水　純子
制作国	イギリス、アメリカ
スタッフ&キャスト（監督、脚本家、俳優、その他）	スタッフ：監督、脚本、製作：スタンリー・キューブリック / 撮影：ジョン・オルコット/ プロダクション・デザイン：ジョン・バリー/ 音楽：ウォルター・カーロス/ キャスト：マルコム・マクダウェル: アレックス（Alex DeLarge）/ ウォーレン・クラーク: ディム（Dim）/ ジェームズ・マーカス:ジョージー（Georgie boy）: /ポール・ファレル: 乞食の老人 /リチャード・コンノート:ビリー・ボーイ（Billyboy）/ パトリック・マギー: ミスター・フランク（Frank）/エイドリアン・コリ:ミセス・アレクサンダー/ミリアム・カーリン: キャットレディ/オーブリー・モリス: デルトイド（Deltoid）/スティーヴン・バーコフ: トム（Tom）/
画像	
カラー・モノクロ	カラー
時間	137 分
ストーリー	『時計じかけのオレンジ』は、科学によって人間としての個性を奪われロボットのようになった人間を描く。舞台は近未来のロンドン。4 人組の不良グループ「ドルーグ」のリーダーの 15 歳の少年アレックスは、ドラッグ入りのミルクを飲みながら、無軌道な暴力「ウルトラ・ヴァイオレンス」を実行中。ホームレスの老人を襲って瀕死の重傷を負わせ、人家に侵入して「雨に唄えば」を歌いながら夫の前で細君をレイプし、金持ちの老女を男性器の置物で撲殺する。アレックスだけが刑務所に入るが、悪を矯正する心理療法「ルドヴィゴ療法」の被験者となった引き換えに出所を許される。 　実験の結果、悪と性の衝動に対して吐き気を覚えるように習慣づけられて弱者になったアレックスは、仕返しされて袋だたきになり、メディアを利用した政権転覆の材料にされそうになる。過剰な拒否反応を起こすベートーヴェンの「交響曲第九番二短調」を聞かされて自殺未遂をしたアレックスを治験療法を決めた内務大臣が見舞い、和解と引き換えに良い仕事を世話することを約束する。アレックスは、大好きだったベートーヴェンを聞きながら、セックスを夢見て、自分の「時計じかけのオレンジ」状態からの回復を確信する。
時代設定	近未来
場所	イギリスのロンドン
社会背景	政治的右派と左派双方に対する危惧、権力が科学を結びついて人間を歪める恐怖、若者の非行と暴力。

文化的背景	パンク（社会に対する不満や怒りを露骨に攻撃的にぶちまけるロックンロールやファッションなどのサブカルチャー）の流行、ロシアの文化に共鳴する共産主義者。
使用言語	イギリス英語、ナッドサッド言葉（英語とロシア語のスラングの組み合わせ）。
テーマ	暴力と悪の本質について問いかけ、科学による対処法の限界を暗示する。行動主義心理学の政治的悪用の危機感表明。
みどころ	マルコム・マクダウェルの無軌道な不良なのに共感を呼ぶ、洗練されたユーモラスな演技、国家をはじめとする権力の恐ろしさ、人間の悪の問題を直視する点。
印象深いせりふ	PRIEST: Choice! The boy has no real choice, has he? Self interest, fear of physical pain drove him to that grotesque act of self abasement. Its insincerity was clearly to be seen. He ceases also to be a creature capable of moral choice. ALEXANDER: I tell you, sir, they have turned this young man into something other than a human being. He has no power of choice any more. He's committed to socially acceptable acts, a little machine capable only of good... He can be the most potent weapon imaginable to ensure that the Government is not returned at the next election. The Government's great boast, as you know sir, is the way they have dealt with crime in the last few months. Recruiting brutal young roughs into the police, proposing debilitation and will-sapping techniques of conditioning. Oh, we've seen it all before in other countries The thin end of the wedge. Before we know where we are we shall have the full apparatus of totalitarianism. This young boy is a living witness to these diabolical proposals. The people ó the common people ó must know... must see! There are rare traditions of liberty to defend. The tradition of liberty means all. The common people will let it go! Oh, yes ó they will sell liberty for a quieter life. That is why they must be led, sir, driven... pushed!!! Thank you very much, sir. He'll be here.
授業教材用メリット	巧みな風刺、洗練された映像、善悪の問題を考えさせる、イギリスの日常英語が聞ける、文学作品の映画化の成功例を鑑賞できる。
授業教材用デメリット	残酷な場面と暴力場面、露骨な性描写、悪の魅力、ひねった諧謔(諧謔)の理解のむずかしさ。
映像入手元	ワーナー・ホーム・ビデオ
原作の有無	アンソニー・バージェス『時計じかけのオレンジ』
支持反応	metacritic 評価（批評家 78 、観客 8.1） Rotten Tomatoes 評価（批評家 90、観客 93）
キーワード	ロンドン、クラシック音楽、ベートーヴェン、近未来、暴力、レイプ、犯罪、刑務所、不良、ナッドサッド言葉（英語とロシア語のスラングの組み合わせ)、ルドヴィコ療法、ステレオ録音、権力、「雨に唄えば」、風刺。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。
許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。